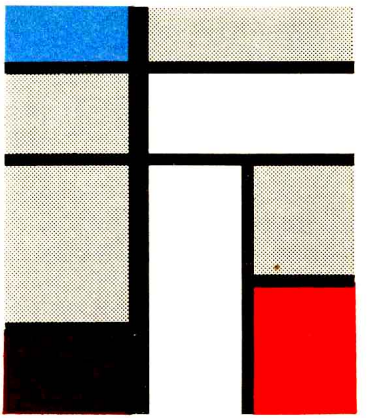
林　直道著

経済学入門



青木書店

経済学入門

林　直道著

青木書店

はやし　なお　みち
林　直　道

1923年　大阪市に生まれる
1946年　大阪商科大学卒業
現　在　大阪市立大学教授
経済学博士
関西勤労者教育協会副会長

主　著　『景気循環の研究』(1959年，三一書房)
『史的唯物論と経済学』(1971年，大月書店)
『国際通貨危機と世界恐慌』(1972年，大月書店)
『フランス語版 資本論の研究』(1975年，大月書店)
『恐慌の基礎理論』(1976年，大月書店)
『現代の日本経済』(初版 1976年，第2版 1979年，青木書店)
(編)『講座・現代日本資本主義』第2巻・経済(1973年，青木書店)
(編訳)『資本論 第1巻 フランス語版』(1976年，大月書店)
(編)『講座・史的唯物論と現代』第4巻 a b・現代資本主義(1)(2)(1978年，青木書店)

経済学入門

1981年1月30日 第1版第1刷印刷
1981年2月15日 第1版第1刷発行
定価1400円

著者 林　直　道
発行者 山　根　襄

発行所 株式会社 青木書店
東京都千代田区神田神保町1-60
振替口座・東京 8-36582 番
電話・東京 (292) 0481 (代表)
郵便番号 101

© Naomich Hayashi, 1981 奥村印刷・黒岩大光堂製本

ISBN 4-250-81001-1

目　次

はじめて経済学を学ぶ人のために……2

第I篇　資本主義経済のしくみ

第1章　商品と価値……8
商品は使用価値と価値とをもつ　価値の実体は労働である
価値の大きさは労働の分量で決まる　価値法則の意義と役割

第2章　貨　幣……19
貨幣の正体はなにか　貨幣のさまざまの機能　インフレーション

第3章　労働力の価値と使用価値……27
不等価交換では真の説明にならない　資本主義では労働力が商品として売買されている　労働力の価値はなんで決まるか　労働力の使用価値
第4章　資本と剰余価値……38
生産物の価値の形成過程　剰余価値　形式的等価交換と実質的不等価交換　必要労働と剰余労働　不変資本と可変資本。剰余価値率
第5章　剰余価値生産の方法……48
絶対的剰余価値の生産　相対的剰余価値の生産　労働強化と剰余価値の生産　特別剰余価値　合理化について
第6章　賃　金……58
賃金の本質　賃金の基本的な形態——時間賃金と出来高賃金　苦汗賃金制度　職務給　賃金の高さ（賃金水準）
賃金闘争の意義

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第7章　資本の蓄積……69
再生産につれて資本は剰余価値のかたまりにかわる　資本蓄積と企業間競争　資本の集積と集中　資本の有機的構成の高度化。相対的過剰人口＝産業予備軍の形成　労働者階級の貧困化　資本主義的蓄積の一般的法則——富の蓄積と貧困の蓄積

第8章　資本の循環と回転……81
資本の流通過程　資本の循環　資本の回転——生産時間と流通時間　固定資本と流動資本

第9章　社会的総資本の再生産……89
社会的総資本の再生産とはなにか。価値補塡と素材補塡　単純再生産の条件　拡大再生産の条件　再生産の条件の意義

第10章　資本と利潤……97
利潤とはなにか　利潤率の差をもたらすもの　利潤率の均等化。平均利潤率の法則　平均利潤率の法則の意義
生産価格　独占利潤と独占価格
第11章　商業と信用。株式会社……110
資本の三つのグループ　商業資本と商業利潤　流通費
貸付資本と利子　サラリーマン　商業信用と銀行信用
資本主義生産における信用の役割　株式会社と創業者利得　株式取引と投機利得
第12章　地代と農業における資本主義……124
資本主義の地代　差額地代　絶対地代　土地価格
建築地地代　農民層の分解。農業における資本主義の発達
小農民経営の貧困化と没落
第13章　国民所得と国家財政……133
社会的総生産物と国民所得の生産　国民所得の分配と再分配　国家財政の役割　さまざまの労働者種類

第14章　恐慌と景気循環……143
相対的過剰生産　恐慌の原因——資本主義の基本矛盾
生産と消費との矛盾　資本主義生産の無政府性　恐慌の発現過程　景気循環

第Ⅱ篇　経済の歴史と未来

第1章　労働と生産の歴史……157
原始人類の発見　人間と動物とのちがい——労働　生産力　生産用具の歴史。生産力の発展

第2章　経済制度の歴史……182
生産関係（経済制度）　原始共同体制度　奴隷制度
古代東洋的専制主義＝総体的奴隷制について　封建制度
資本主義の発生

第3章　独占資本主義＝帝国主義……207
生産の集積と独占体の支配　銀行の役割と金融資本　国家独占資本主義　資本の輸出。多国籍企業　国際独占体による世界の経済的分割　帝国主義の植民地支配。戦争と抑圧の根源　独占資本主義＝帝国主義は資本主義の最後の段階である　社会進歩の道としての経済民主主義
第4章　社会主義……229
空想から科学へ　資本主義の内部での社会主義の物質的前提の成熟　社会主義への道　社会主義の経済的内容　社会主義と共産主義　必然の国から自由の国へ
さらに経済学を学ぶ人のために……242
あとがき……245

経済学入門

はじめて経済学を学ぶ人のために

われわれの住んでいる資本主義社会は、じつに奇妙で不合理なできごとで満ちている。

資本主義は過去のどの社会も及ばぬほどすばらしく物質的生産力を高めた。これは明らかに資本主義のはたした歴史的功績である。ところがこの生産力によってつくりだされたものは、社会の人びとをのこらず公平にうるおしているわけではない。富の一大部分は、ごく少数の富豪のもとへ集中し、一年間に平均的サラリーマンの何百年分もの収入が転がりこむという大ブルジョアもいる。ところが、社会の圧倒的多数を占める勤労大衆や自営業者にたいしては、社会の富のごくわずかしかまわってこないから、一生懸命に働いても、社会的生活水準の急速な上昇においつかないし、〝中流〟と思えたくらしも、物価上昇や大増税、教育費のぼう張などによっておびやかされている。そのうえ、もしも働き手が交通事故や労働災害、病気で倒れでもしようものなら、たちまち一家の生活は破たんする。おどろくべき富と所得の偏在、いわゆる社会的貧困の問題はいぜん解決されずによこたわっている。それは日本だけのことではない。資本主

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

義の中心国アメリカにもおなじ貧困の問題が厳然と存立しているのである。

こんにち、年に数億円もかせぐ大資本家ともなれば、とくべつの経営手腕の持ち主であろうし、この人びとが現在の地歩を築くには骨身をけずる労苦があっただろうことはよくわかる。けれども、それにしても、現在の格差はあまりに大きすぎる。こうした財界スーパーマンの所得は、大部分が株式や社債、土地財産など、資本を所有していることから生じたものである。株には配当がつく。土地は地代を生み、値が上がる。このように資本所有の果実はすばらしく甘い。ところが、これにくらべて、労働にたいする報酬はあまりにも少ない。多少の賃上げは、はげしい物価騰貴ですぐ帳消しになってしまう（現代では、小農民、小生産者や、規模の小さい資本家・経営者もまた、巨大独占資本のはげしい攻勢をうけて、しばしば困難においやられる）。資本主義の経済は、過去の前近代的社会の経済とは異なって、人身的隷属や強制労働によってではなく、独立した人格の自由な契約と平等な交換取引とから成り立っている。それにもかかわらず右のような極端な経済的不平等が生じるのは、まことにふしぎなことといわなければならない。

第二に、資本主義経済のふしぎな現象として、周期的に襲来する経済恐慌と不況がある。つい昨日まで事業は繁栄をきわめ、生産と市場が大盛況をていしていたはずなのに、いつのまにかこの好況が蜃気楼のように消えうせ、金づまり、過剰生産、販売難がやってくる。一九六〇年代は世界経済が好調で、あまりひどい不況はおこらなかったが、一九七四年、資本主義各国には本格的な世界同時不況がおこり、やはり資本主義は恐慌・不況をとりのぞくことができないということが、あらためて確証された。恐慌・不況がおこると、労働者は、失業の脅威にさらされ、また実質・手取り賃金の削減で大いに苦しみ、生活の必要

を満たすことができない。また恐慌・不況がおこると、ひどい打撃をうけるのは下請中小企業である。堅実に、誠実に商取引にはげんでいた業者が思いもかけぬ不渡手形をつかまされ、連鎖倒産のうきめにあう。ときには自殺する人も出る。天災やなにかで物が生産し足りないから欠乏がおこるのではなく、物をたくさんつくりすぎたがために人びとが物に欠乏するというのは、どう考えてもふしぎであり、逆説的な現象というほかはない。なぜこういう現象がおこるのか。

しかも最近では、アメリカ経済に典型的に見られるようなスタグフレーションという、インフレーションと不況との絡みついた新しい現象が出てきている。現代資本主義はほとんど恒常的なインフレにおちいっていて、油断するとひどい物価上昇がまきおこる。そこで政府はインフレ抑制の政策を強化せざるをえない。すると景気が冷えこんで失業がふえる。そこで政府は不況を克服するために景気刺激政策に転換せざるをえない。すると、たちまちインフレが再燃する。……古い言葉であるが「忠ならんと欲すれば孝ならず、孝ならんと欲すれば忠ならず」といった状態におちいるわけである。なぜそうなるのか？

第三に、現代資本主義のなかには、人類最大の不幸であるべき戦争を、経済の立場から大いに歓迎するグループが、政界や経済界で力を占めていることである。一九五〇年、朝鮮戦争がぼっ発したとき、ウォール街（アメリカの財界）は、これを「頭上にたれ下がった不景気を吹きとばす」ものとして大よろこびし、「アメリカの兵士は国のためだけでなく、われわれの繁栄のためにも死んでいるのだ」とあからさまに語った（『ニューヨーク・ヘラルドトリビューン』一九五〇・九・六）。日本の財界でも朝鮮戦争は特需ブームをもたらした「神風」だともてはやされた。こんにちアメリカの世界政策が、軍需生産（防衛産業）や海

外投資で巨億の利益をあげる大独占資本家自身によって決定されていること、たとえば、一九五四年ジュネーブ協定をじゅうりんしベトナムへの軍事介入を強行したアイゼンハワー政権の国防長官ウィルソンが労働者数八五万人（一九七九年）のアメリカ最大の独占企業ゼネラル・モーターズの社長その人であり、ベトナム侵略を拡大したケネディ・ジョンソン政権の国防長官マクナマラが労働者数四〇万人、売上高アメリカ第三位の超巨大企業フォード自動車会社の社長である、といった例はかぞえるときりがない。世界人民の悲願をよそに、核兵器の製造がやまない最大の理由は、ゼネラル・エレクトリック、ユニオン・カーバイド、デュポン社など独占大企業がこれでべらぼうな利潤をあげていることにある。また、アメリカ政府はこれらの軍需会社から兵器を買い上げるために年々巨額の軍事費を支出している。それによる財政赤字の累積が、慢性的インフレの根本原因となっているのであって、そのことを政府自身も認めているにもかかわらず、いぜんとして巨大軍事費の支出をやめようとはしない。

「共産主義の脅威」をふせぎ、「自由世界の平和と安全」のために軍備増強が必要なのだと称されているにもかかわらず、じっさいは現代資本主義の支配的グループの経済的必要、利潤の要求にもとづくものだとしたならば、なんとおそろしいことではないだろうか。むかし岡倉古志郎教授の、ベスト・セラー『財閥』という本に「かくてまた戦争はつくられるか」というショッキングな副題がつけられていたが、この副題はたんなる比喩的いいまわしではなかったのである。そして八〇年代を迎えて、平和国家・日本でもまた、兵器生産のための防衛費の大幅増加、防衛産業の育成・発展ということが、はやし立てられる情勢となっている。

以上、富の偏在と所得のおどろくべき格差、数年おきにやってくる経済不況の嵐、インフレーションの慢性化、戦争や軍事化の経済的内幕、等々、思いつくままに資本主義の不合理、ふしぎな現象をあげてみた。さらに最近のわが国では、経済の急速な拡大＝高度経済成長の落し子として始まった公害問題の深刻化（工場公害、交通公害、食品公害、等々）という新たな苦痛が人びとをとらえている。美しいことで有名な沖縄でも、東部・南部の海岸は、沖合いを通るタンカーの不法な廃油投棄で、ベットリと汚れが広がっている。これらが人びとの健康と生命を蝕ばみ、自然を破壊する重大な事態であることがわかっているにもかかわらず、効果的な手は打たれず、日一日と公害は増大している。

これらは結局、資本主義が、人間中心、人びとの生活中心の経済制度ではなくて、利潤中心、とくに巨大企業の独占利潤にふりまわされ支配される経済体制であることを物語っている。われわれは資本主義の達成した偉大な歴史的進歩（生産力の発展と、人間の人身的隷属の廃止＝形式的に平等な人権の確立）をみとめたうえで、それのもつ歴史的限界を経済学的に明らかにしなければならない。

本書の第Ⅰ篇は、資本主義経済の基本的なしくみを、その最も単純な構成要素である商品の分析からはじめて、ひととおり体系的に説明したものである。本書の第Ⅱ篇は、原始共同体時代以降の経済の歴史的発展の法則を大づかみにあとづけ、資本主義から社会主義への移りゆきがいかに客観的必然性をもつかを述べたものである。

全体をつうじてなるべく平易にと心がけたが、本書がはじめて経済学を学ぶ人びとにいくらかでも助けになればしあわせである。

第Ⅰ篇　資本主義経済のしくみ

第1章　商品と価値

1　商品は使用価値と価値とをもつ

資本主義経済のしくみを明らかにしてゆくためには、まず「商品」からはじめなければならない。そのわけは、資本主義経済は、歴史的にいって過去の社会にふくまれていた商品経済が発展してできたものであるうえに、でき上がった資本主義経済もまた商品を構成要素（原基形態）として成り立っており、こうして資本主義経済にとっては、歴史的にも論理的にも、商品というものが出発点となっているからである。

さて、それでは商品とはなんだろうか。商品とは、使用価値および価値という二つの内容をもったものである。

まず商品は「使用価値」をもっていなければならない。たとえば食品は、空腹をみたし、栄養とカロリーを供給する。あるいは、うまいという快感をあたえる。服は、寒さをふせぐ、あるいは、すてきなスタイルにみせてくれる。ペンは字を書くのに役立つ。旋盤は金属を切り削るのに役立つ。……このように人

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com